

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和5年度は、履修対象を文系・理系を問わない全学開講科目として展開し、当初の予想を大幅に上回る反響があった。最終的に、履修対象学生574名に対し、361名の履修となった(履修率63%)。単位修得者は326名であった(修得率90%)。プログラムの周知は講義内でのみ行っていたため、該当科目の修了により本教育プログラム修了の認定となることを知らない非履修者がいた。今後は入学時の説明やシラバスへの記載などにより、積極的なプログラムの周知を行っていく。
学修成果	データサイエンスリテラシーの学修効果については、本学で行われている他の科目と同様に授業評価アンケートを実施し、また毎回の小テストや最終試験などにおいても個々の学生の理解度や学修状況の把握に努めた。授業評価アンケートの結果は以下のとおりであり、新しい知見やものの考え方を修得できたことが確認できた。 問：あなたは、この授業を受けて新しい知見やものの考え方を修得しましたか。 「はい」55%、「どちらかと言えばはい」33%、「どちらとも言えない」8%、「どちらかと言えばいいえ」1%、「いいえ」3%
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートの結果は以下のとおりであった。計96%の学生は理解できており、内容の理解度は問題ないと言える。 問：あなたにとってこの授業の難易度はどの程度でしたか。 「いくら努力しても理解できない程度」4%、「かなり努力すれば理解できる程度」16%、「努力すれば理解できる程度」43%、「少し努力すれば理解できる程度」30%、「努力しなくても理解できる程度」7%
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	直接的に後輩等他の学生への推奨度を取得してはいないが、授業評価のコメントなどからも概ね内容に関し好感度の高い講義であることがうかがえる。一方で、特別講義において、文系向けの内容に関しては理系の学生からの評価が低い傾向にあり、この点については次年度以降の課題である。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全ての学群との時間割調整を行い、できる限り多くの学生が履修可能となる開講時間としたが、完全に他の科目との重なりを避けることができず、対象学生における履修率は63%にとどまった。次年度以降においてもより効果的な時間割を模索すると共に、プログラムの告知などより、さらに多くの学生に興味を持ってもらうことができるよう努める。また将来的には、より柔軟な履修が可能となるよう開講時期をずらし、年2回以上の実施を行うなども検討する予定である。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムで提供する授業科目は1年次配当科目であり、また本プログラムは令和5年度から開始したため、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価に関する自己点検・評価はまだ行っていない。次年度以降、進路や活躍状況の把握・分析に努め、また企業等からの意見を聴取していく。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	特別講義に招聘する特別講師からの意見聴取をはじめ、産業界からの意見を引き続き集め、プログラム内容や手法に反映していく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	特別講義として、データサイエンスやAIを活用している第一線の情報系企業より講師を招き、その中で学生と一緒に考えていくなど、より積極的な学びを得られる構成としている。また技術だけでなく経営の面からも、今後自分たちがどう向き合っていくかという観点について、同様に特別講義として大手企業の社長に講演を依頼し、学生からは様々な感想を得ることができた。引き続き、授業評価アンケート結果等をもとに、授業改善を行う。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業内容や方法、水準、教え方に関しては、授業評価アンケート結果をもとに点検・評価し、改善に努めている。加えて、学生から授業ごとに記述式アンケートをとるなどにより、授業改善を継続的に行っていく。一方で、より意欲のある学生に対して追加的な課題を出すなど、学びに対する要求にも応えられる内容としていく。